

聞き取りと、聞き分けを分ける

この紙のゴール：リスニングの大問を、観点を決めてから作る

教科書付属の音源をそのまま流すと、測っているのは本文を覚えているかどうかになります。読解を本文の再掲で作るのと同じ穴です。設問の型を先に選べば、スクリプトは短くて足りますーリスニングの重さは、長い英文を用意することではなく、何を測るかを決めていないことから来ます。

設問の4型 上2つが知識・技能、下2つが思考・判断・表現です

型	観点	問い方の例	配点のめやす
事実の聞き取り	知技	だれが／どこで／何をしたか	1問2点
数字・時刻の照合	知技	何時に会うか。いくらになるか（表と照らす）	1問2点
意図・態度の推測	思判表	この人はどう感じているか。この返事は承諾か断りか	1問3点
複数情報の照合	思判表	3人の希望を聞いて、条件に合う案を選ぶ	1問4点

1つの大問に型を混ぜないこと。混ぜた瞬間に、その大問の観点が決められなくなります。

- ・スクリプトの作り方ー1文を短く（15語まで）。数字は1回しか言わない（2回言うと、聞き取りではなく書き取りになります）。言い直しやWell, ... を入れると自然になり、難しさは上がりません。固有名詞は問題用紙に印刷しておきます。
- ・選択肢の作り方ー聞こえた語をそのまま含む選択肢を正解にしないこと。語の一致だけで当たるようになります。誤答には、聞こえた語を1つつ入れておくのが基本形です。
- ・読む回数ー知識・技能の型は2回、思考・判断・表現の型は1回。全部2回にすると、時間が足りなくなるのは思考・判断・表現のほうです。

作問の記入欄 先にここをうめてから、スクリプトを書きます

大問	型	観点	配点	読む回数	語数のめやす
1					
2					
3					
4					
5					

語数のめやすは、事実の聞き取りで40～60語、意図の推測で60～90語、複数情報の照合で100～140語。長さより、1回で聞き取れる密度のほうが効きます。

配点の置き方

リスニングは満点の15～25%がめやすです。それ以上にすると、当日の音の聞こえ方（座席・体調）で点が動きすぎます。逆に10%を切ると、生徒は練習しませんー練習させたい量と配点は連動します。

リスニング作問キット | 読み上げの台本と、機器が無いときの回し方

読み上げの台本 教師が読む場合も、音源を使う場合も同じ順で進めます

順	読み上げること
1	「第○問。英文は2回読みます。メモを取ってかまいません」（回数を必ず言う）
2	問題用紙を見る時間を15秒。ここを飛ばすと、最初の1問が全員落ちます
3	1回目を読む。速さは1分あたり110～130語がめやす（速く読むほど難しくなるわけではありません）
4	10秒あける。ここで解答させます
5	2回目を読む。1回目と同じ速さ・同じ間で読みます（2回目を速く読むと不公平になります）
6	20秒あけて次の大問へ

機器が無いとき

状況	回し方
スピーカーが無い教室	教師が読みます。読み上げは棒読みにせず、役ごとに向きを変えると、だれの発言かが伝わります
音が反響して聞こえない	後ろの席の生徒に手を挙げてもらってから始めます。1回目の前に必ず確認します
聞こえにくい生徒がいる	スクリプトを印刷して手元に置く配慮を、事前に本人と決めておきます（当日その場で決めない）
練習を日常に入れたい	帯活動で1分だけ。教師が短い英文を読み、事実を1つ聞き取らせるだけで十分です

採点の注意

- 書き取りの設問ではつづりを問わないと決めて、その旨を問題用紙に刷ります。つづりを見るなら、それは知識・技能の語彙の設問です。
- 数字は算用数字でも英単語でもよいことにします（聞き取れたかどうかを測っているためです）。
- 意図・態度の設問で割れたら、スクリプトのその1文を読み直します。判断の根拠が1文に無ければ、設問のほうが悪いと考えます。

つながる紙

観点の割りつけは観点ラベル早見表、大問の並べ方と想定時間は定期テスト設計図に合わせてください。リスニングを入れると想定時間が10分前後増えるので、設計図の合計時間を先に引き直してから作問に入ります。

